

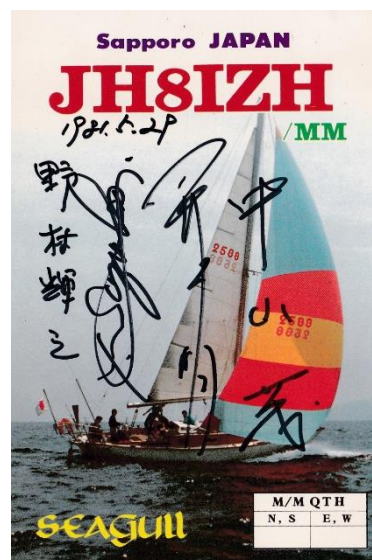
初代シーガル号の艇長 野村輝之さん（JH8IZH）を偲んで

（シーガルネット発足の切っ掛けとなったヨット）

6月6日、シーガルネットの初代のコントローラー笠井さん（JH8AHU）から野村さんの訃報のお知らせのメールが届きました。

今のサポートネットに参加されている方々で野村輝之さんを知っている方はほとんどいらっしゃらないと思います。現在の朝、昼、夕の三つのネットにはそれぞれネット名が付く切っ掛けとなったヨットがありました。一番古いのは「オケラネット」ヨット「オケラ」の多田雄幸さんの航海をサポートするために立ち上げられたネットです。続いて1980年に北海道から野村輝之さんを含む4人のクルーによる太平洋横断のヨットのサポートのため「シーガルネット」が立ち上げられました。

そして2018年9月、夕方にもう一つのネット「ドンタクネット」が加わりました。ドンタクの檜崎さんは長距離航海をされませんでしたので、サポートネットは作られませんでした。日本一周を何度もされた方です。沿岸にはあちこち漁網が設置され、又、停泊のため小さな漁港などにも熟知して居なければなりません。かなり技術を要する航海です。檜崎さんを尊敬する方が「ドンタク」の名前を残したかったのでしょう。



野村さんがお亡くなりになったことで、三つのネットの名前の由来となった方々は人生を終え、三艇のヨット名がそれぞれサポートネットの名前として後世に残ることになりました。



北海道からも沢山のヨットマンが活躍しております。ホーン岬経由で294日間かけて世界を1周した「リサ号」の大瀧健一さん、長期間かけて世界をゆっくり回った「シーガル号」の浦瀧富士幸さんは、皆さん御存知のように現在も活躍中です。前出の「シーガル号」と全く同じ名のヨット名ですが偶然重なったヨット名で全く別のヨットです。

沢山のヨットマンが居ますが野村さんは特別な存在でした。それ迄に北海道から太平洋を渡ったヨットは無く、初めての挑戦だった上、野村さんは札幌市役所の勤務でしたので、姉妹都市であるアメリカのポートランド市の親善訪問など公的な役割も持っており、バックアップは大規模なものでした。北海道新聞社、テレビ局、札幌市、その他、広範囲な支援者達の物心両面の協力があったようです。

私は1980年の11月にアマチュア無線を開局しましたが、1981年1月、HF帯に出るようになってすぐシーガル号と出会いました。この出会いがその後の私のHAMライフに大きな影響を与えた様です。海外との交信、読売1万局アワード、日本の各都市、市町村のカードを集めている人達も居ましたが、私はいきなりヨットのサポートの分野に足を踏み入れてしまいました。よく続いたものです。この分野に入らなければ多分無線は止めて、別の分野のものに夢中になっていたかもしれません。

この時は「シーガル号」の為だけに立ち上げられたネットでした。サポートは札幌の「スネターズグループ」。毎朝、約1時間色々な会話が飛び交いました。トンガの王子達と海辺でビールを飲み交わした話、名も無き小島で綺麗な貝殻を見つけた話、鯉節作りに挑戦した話、なかでも雲の流れを見てシャワー代わりにスクールを期待して、石鹸を体に塗り待機していたら雨の通り道がそれ、仕方なく海水で洗い流した話など、とても面白かったことを思い出します。

この航海の特徴は、GPS 等を使わず全て天測で位置を測り進路を決めての航海でした。今の航海はほとんどが GPS を使っているため、いかに難しいものなのかわかると思います。

5月24日、無事航海を終え小樽に帰港しました。23日最後の交信として御祝いとお別れのメッセージを送ったところ、艇長の野村さんからクルーを代表して感謝の言葉が告げられました。その時、後援のテレビ局側でその会話を録音していたようです。その日の夜のニュースに嵐の津軽海峡を渡るシーガル号のバックに、別れを惜しむメッセージが流れ、楽しい時間の終わりを実感として感じました。シーガル号が帰港してしてしまうと、翌日から何も聞こえません。終わりのあるものを追いかけるのは止めようと思えました。

その後、北海道から色々なヨットが次々と航海に出ましたが、その都度、このシーガルネットを使い、いつしか固定したサポートネットとなり、広くを受け入れる今のシーガルネットが出来上がりました。長い年月が流れ記憶が薄れかけた時、「シーガルネット15周年記念の祝賀会」が開催され、初めてクルー、サポートグループの方々とお会いしました。その感激は言うまでもありません。「スネターズグループ」の方々は今もお元気ですが、野村さんがお亡くなりになるとクルーの方達の消息は分からず、全て刻の流れの中に埋没してしまうようです。



私が開催のお手伝いをした「シーガルネット35周年祝賀会」の後、野村さんは左耳下腺癌にかかり大きな手術を受けられましたが、不屈の精神でその後も世界を回るヨットに同乗したり、日本でもアドバイザーとして他のヨットマンの指導に当たったり、最後までヨットマンとしての人生だったと思います。長い人生頑張りましたね。

その死を悼み心からご冥福をお祈り致します。 合掌

2023, 6, 15

5代目 シーガルネットコントローラー
JH8XIZ 原田栄子